Y09c 「北の丸望遠鏡」を用いた教育活動　－ 教育用リモート望遠鏡による画像配信の試み－

縣秀彦（国立天文台）、戎崎俊一（理研）、奥野光（科学技術館）、○川井和彦（理研）、木村かおる（理研）、小池邦昭（東理大理）、田代英俊（科学技術館）、内藤誠一郎（東大理）、山本泰士（電通大電気通信）

東京都千代田区北の丸公園にある科学技術館屋上に望遠鏡（以下、北の丸望遠鏡 と書く。）を設置中である。北の丸望遠鏡は、インターネットを介して、天体画像の取得、データベースへの蓄積、利用者への画像提供を行い、学校および社会教育現場で生きた天文学習活動の支援を行うことを主眼としている。さらに、Hands-On Universe (HOU) との相互協力を通じ、学問の発展と国際親善に寄与することも目的としている。

科学技術館では、毎週土曜日に行われるサイエンス・ライブショー「ユニバース」の中で、アメリカのＨＯＵ望遠鏡やヤーキス天文台の望遠鏡を使って、ライブショー中に画像取得を行い、参加者に生の宇宙の姿を伝えている。今回は、これを逆に日本から海外にリアルタイムで画像を送信し、教育利用してもらうことを考えている。また、リアルタイムの遠隔操作だけではなく、Ｗｅｂページで観測リクエストを受け付け、晴た晩に自動観測を行う機能もある。この機能によって、日本国内の学生・生徒でも割と楽に自分自身の観測が行えるようになる。北の丸望遠鏡は、市販の３０ｃｍ望遠鏡（Ｍｅａｄ製）と冷却ＣＣＤカメラ（ＳＴ－ ８Ｅ）で構成されている。

現在は４月中旬からの本格運用を目指して試験運用中であり、今回の発表では今後の運用方針と試験運用中に行われた活動について報告をする。なお、この望遠鏡は、科学技術館が管理し日本ハンズオンユニバース協会（JAHOU）が主体となって運営される。